一人一人に寄り添った学びと成長を

アジア学院との交流や学校祭での英語劇。そして年3回のマラソン大会。大規模校ではなかなか経験できない、独自の活動を展開する波立小学校。それらの活動に込めた思いとは――

interview

波立小学校 校長
渡邊 法子（わたなべ のりこ） 先生

きめ細かな教育を

全児童112人のうち、28人が学区外から通う波立小。年々その割合は増え、4人に1人とまでになった。「きめ細かな教育を心掛けていることが、選ばれる理由なんですかね」。学区外からの児童増加の理由を尋ねると、そう控えめに答えた渡邊校長。波立小の教育方針は学びの中の「出来た！」や「分かった！」という感動の瞬間を大切にする〝笑顔いっぱい〟の学びづくり。「でも分からない時は、素直にそう伝えられる関係づくりも大切」と信頼関係の重要性を語り、「小さな声にも耳を傾け、一人一人に寄り添った教育をしたい」と思いを教えてくれた。「分からなくても大丈夫」。そんな深い愛情に支えられ、多様な学びが提供されている。

英語にマラソン　独自の教育

「What sports do you like?（どんなスポーツが好き？）」子どもたちの元気な英語が飛び交う教室。年に2回、アジア学院の実習生が学校を訪れ、母国の紹介やゲームで交流する。今年はアメリカとドイツ、キリバスからの実習生が母国の生活や文化を紹介。「目を輝かせ、真剣に耳を傾ける姿が印象的でした」と渡邊校長は交流の様子を振り返り、「単語や文法を覚えるよりも、心の壁を取り払って交流する楽しさを感じてほしい」と活動への期待を寄せた。

昨年11月の学校祭では6年生が英語の劇を披露。観客にも参加を呼びかけるなど工夫を凝らした自作劇は、白雪姫や大きなかぶなど4つの物語。「大勢の前で、しかも英語での発表。少人数なので全員にセリフがあり、貴重な経験になっています」。子どもたちの堂々とした演技に、観客からは絶賛の声が届いたという。

英語教育以外に力を入れているのが「マラソン」。マラソン大会は年3回行われ、子どもたちは自ら目標を立て、毎朝10分間の朝マラソンに汗を流す。「人と比べるのではなく、自分の目標を立てること。そして、自分に打ち克ち最後までやり遂げることが大切」と活動の意義を語った渡邊校長。マラソン大会当日には「○○さん、最後まで頑張って」と元気な声援が飛び、走者の背中を押している。小規模だからこそ、一人一人の名前を呼び合える子どもたち。もちろん先生も全ての児童と保護者の顔を覚えられる。「日常の何気ない会話でも、名前を呼び合えるのって大切だと思います」。一人一人が大切にされ、尊重される波立小。「本校への通学を検討している方は、まずはお気軽に見学をしに来てください」と渡邊校長は話してくれた。

11月の学校祭（波小祭）で行われた英語劇。大きなかぶを引っ張る掛け声ももちろん英語。保護者や地域の人が見守る中、一生懸命に英語で演じきった。

年3回開催されるマラソン大会。日頃の練習の成果を発揮しようと子どもたちの表情は真剣そのもの。

波立小学校へ子どもを通わせている保護者に感想を聞きました――

入学前に授業を見学し、一人一人を丁寧に教えている様子を見て、すぐに入学を決意しました。入学後は上級生が下級生を優しく面倒みてくれたり、先生も親身に相談に乗ってくれたりと、この学校にして良かったと日々実感しています。

周囲からはクラス替えがないことや通学の送り迎えの大変さを心配されますが、特にマイナスには感じていません。送り迎えは、先生と交流する良い機会で、その会話をきっかけにして、放課後学習や朝の読み聞かせのボランティアに参加したりと、私自身多くの経験をさせていただいています。子どもたちの元気な姿を見るのは楽しみですし、自分も役に立っている実感があり、とてもやりがいを感じています。

もし、小規模特認校への通学を検討しているのであれば、まずは見学することをおすすめします。

interview

波立小学校 保護者
芦澤 優（あしざわ ゆう） さん

小規模特認校をもっと知りたい人は…

小規模特認校では随時希望者の見学を受け入れています。子どもの通学を検討している人やもっと詳しく知りたい人は、まずは学校教育課まで問い合わせてください。

- **小規模特認校**　波立小学校、高林小学校、青木小学校、関谷小学校、大貫小学校 、横林小学校、高林中学校 、箒根中学校、塩原小中学校
- **対象者**　子ども・保護者とも市内（小規模特認校の学区以外）に居住しており、保護者の責任で卒業まで通学できる人
- **問い合わせ**　学校教育課　☎0287（37）5289